

研究室だより  
(2008 年 4 月～2009 年 3 月)

- 坂田薫子氏は、4 月、日本女子大学英文学科准教授に就任。
- ダニエル・ガリモア氏は、4 月、准教授に昇任。
- 植野貴志子氏は、4 月、助教に就任。
- 藤井洋子教授は、4 月、文学部英文学科長に就任。
- 三神和子教授は、4 月、大学院文学研究科英文学専攻主任に就任。
- 島田法子教授は、4 月、日本女子大学総合研究所所長に就任。
- 大場昌子准教授は、4 月、日本ソール・ベロー協会の理事に就任。
- 佐藤達郎准教授は、4 月、日本英文学会編集委員に就任。
- 白井洋子教授は、4 月、『『新世界』の異文化接触』、『ベトナム戦争とアメリカ社会』を、遠藤泰生編『アメリカの歴史と文化』（日本放送出版協会）に執筆。
- 川端康雄教授は、4 月 1 日より 2009 年 3 月 31 日まで、英国 Lancaster University, the Ruskin Centre にて Visiting Scholar として在外研究。
- 坂田薫子准教授は、4 月 26 日、シンポジウム「英国小説のキャンノンと帝国——ディケンズ、ブロンテ、サッカレー」のパネリストの一人として、日本英文学会関東支部 4 月例会（於東京大学、駒場キャンパス）にて富山太佳夫氏、斎藤兆史氏とともに口頭発表。
- 佐藤和哉准教授は、4 月 30 日、『『イギリス文化』を研究すること』を『広島日英協会会報』78 号に執筆。
- 大場昌子准教授は、5 月 6 日から 5 月 12 日まで、後藤祥子学長の本学協定大学訪問に同行のためアメリカ合衆国ボストンへ海外出張。
- 大場昌子准教授は、5 月 8 日、後藤祥子学長のウェルズリー・カレッジにおける講演「源氏物語が書こうとしたこと」で通訳を務める。
- 英語英文学会主催の春季講演会が、5 月 29 日、開催された。講師は University of Southern Methodist 教授 Willard Spiegelman 氏。演題は、“Our First Originals: Emily Dickinson and Walt Whitman and American Poetry”。
- 藤井洋子教授は、5 月 31 日、日本女子大学学術交流研究費助成による文化交流対談「東西の詩的言語 / Poetics を巡って」（於日本女子大学）にてディスカッションを務める。
- ダグラス・フォースター講師は、6 月、“Shattering the American Dream: The Japanese American Internment Experience” を *California English*, Volume 13, No. 5 に執筆。
- ソートン不破直子教授は、6 月、書評、「〈本の時間〉大沢真知子著『ワークライフシナジー』と入谷与四郎著『ワーク・ライフ・バランスの実践』——『学校教育法』改正で変わる大学、変わらない企業——」を、『プレジデント』6 月 30 日号に執筆。
- 島田法子教授は、6 月 1 日、アメリカ学会第 42 回年次大会（於同志社大学）にて、Workshop “From Downtown to Uptown: Social Mobility in Ethnic Com-

munities”の司会を務める。

- ソーントン不破直子教授は、6月21、22日、日本比較文学会創立60周年記念第70回全国大会（於大妻女子大学）の組織委員長を務める。
- 島田法子教授は、6月23日、「後継者上代タノ」を日本女子大学成瀬記念館編『あなたは天職を見つけたか』（日本女子大学）に執筆。
- 島田法子教授は、6月28日、日本移民学会第18回年次大会（於学芸大学）にて、シンポジウム「ブラジル移民百年——移民記念祭の作られ方——ブラジル、ハワイ、カナダ」の司会を務める。
- 川端康雄教授は、7月8日より9日まで、The University of East Anglia, the Sainsbury Institute for the Study of Japanese Arts and Cultures 主催の国際会議“Words for Design: A Comparative Study of Design Terminology”（於East Anglia University）に出席。
- ダニエル・ガリモア准教授は、7月14日より19日まで、IFRT（International Federation for Theatre Research）第51回年次大会（於大韓民国、中央大学）に出席のため海外出張。
- ダニエル・ガリモア准教授は、7月16日、IFRT 第51回年次大会において、パネルディスカッション“Reinvention of Shakespeare in Asia and Cultural Encounters”の司会を務める。
- ダニエル・ガリモア准教授は、7月17日、“Something like *satori*: Shakespeare performance in contemporary Japan”を、IFRT 第51回年次大会にて口頭発表。
- 川端康雄教授は、7月18日より19日まで、The University of Salford, the Ruskin Centre at Lancaster University 共催のコロキアム“Persistent Ruskin: Aesthetics, Education, Social Theory 1870–1914”（於Lancaster University）に出席。
- 藤井洋子教授は、7月21日から7月26日まで、第18回世界言語学会会議に出席および研究発表のため、大韓民国、高麗大学へ海外出張。
- 藤井洋子教授は、7月24日、“Story co-construction and establishment of mutual consent: convergences and divergences between English, Japanese and Korean”を第18回世界言語学会会議（於大韓民国、高麗大学）にて口頭発表。
- 島田法子教授は、8月2日、日本移民学会夏季ワークショップ（於日本女子大学）にて総合司会を務める。
- 島田法子教授は、8月2日、「日本の女性移民史の発掘——戦後のブラジル『花嫁移民』——その歴史的背景と女性像」を、日本移民学会夏季ワークショップ（於日本女子大学）にて口頭発表。
- 佐藤和哉准教授は、8月5日から29日まで、科学研究費「初期イングランドにおける民衆文芸に関する学際的研究」に関する資料収集のため、連合王国、オクスフォード及びロンドンへ海外出張。
- 植野貴志子助教は、8月21日、「疑問表現と会話の展開——日英語対照研究」を日本言語学会夏期講座2008ナイトセッション（於京都大学）にて口頭発表。
- アン・スレイター准教授は、8月23日より9月23日まで、資料収集及びインタビューのため、インド、デリー、ダラムサラ、コルタカ、及びダージリン

地方へ海外出張。

- 白井洋子教授は、8月26日より9月5日まで、資料収集のため、アメリカ合衆国フィラデルフィア、ラ・サール大学へ海外出張。
- 島田法子教授は、8月26日より9月9日まで、JICA 学術研究プロジェクトのインタビューと資料収集のため、ブラジルのサンパウロ市へ出張。
- ダグラス・フォースター講師は、8月29日より9月19日まで、資料収集のため、連合王国ケンブリッジ、Anglia Ruskin University へ海外出張。
- 川端康雄教授は、8月、「平野敬一教授追悼——平野敬一先生の教え」を『英語展望』2008年夏号 (No. 116) に執筆。
- 川端康雄教授は、9月、「ジョン・ラスキンとセント・ジョージのギルド」をデザイン史フォーラム編『近代工芸運動とデザイン史』(思文閣出版) に執筆。
- 藤井洋子教授は、9月、“A study of the situation of *self* in the interaction of conducting of problem-solving tasks: A difference between Japanese and American pairs”を日本認知言語学会第9回大会予稿集 pp. 37–40 に執筆。
- 藤井洋子教授は、9月13日、“A study of the situation of *self* in the interaction of conducting of problem-solving tasks: A difference between Japanese and American pairs”を日本認知言語学会第9回大会ワークショップ“Situating Self, Expressing Emotions, and Quoting Thought: What Narrative and Face-to-face Conversational Data Reveal about Cognition, Culture, and Language” (於名古屋大学) にて口頭発表。
- 三神和子教授は、9月12日より24日まで、資料収集のため、連合王国、ケンブリッジ大学図書館へ海外出張。
- 川端康雄教授は、9月24日から29日まで、The Ruskin Centre at Lancaster University, INCS (Interdisciplinary Nineteenth Century Studies), and The Department of European and Postcolonial Studies of University of Ca' Foscari Venice 共催による国際会議“Ruskin, Venice, and 19th Century Cultural Travel” (於 Venice, Scuola Grande di San Rocco 及び Venice International University) に出席のためイタリア、ヴェネツィアに出張。9月27日、“A Quest for Another Pearl of Great Price: Ryuzo Mikimoto and the Tokyo Ruskin Society”を同会議で (秋山康男と共著にて) 口頭発表。
- 加藤雅子教授は、9月25日より2009年3月31日までサバティカル。
- 島田法子教授は、10月、“Social, Cultural, and Spiritual Struggles of the Japanese in Hawaii: The Case of Okumura Takie and Imamura Yenyō and Americanization”を Jon T. Davidann, ed. *Hawaii at the Crossroads of the U.S. and Japan before the Pacific War* (University of Hawaii Press) に執筆。
- 佐藤達郎准教授は、10月12日、第47回日本シェイクスピア学会 (於岩手県立大学) にて、セミナー「エリザベス朝後期の文学と政治風土」の司会を務め、「*David and Bethsabe* 考——Peele と Essex」を口頭発表。
- ダニエル・ガリモア准教授は、10月12日、第47回日本シェイクスピア学会 (於岩手県立大学) にて、セミナー「シェイクスピア上演・上演研究の今」のセ

ミナー・メンバーを務める。

- 新見肇子教授は、10月19日、「日本女子大学カウンセリングセンター 50周年記念シンポジウム——激変する現代社会の学生相談と家族サポート——」にパネリストとして参加。
- 川端康雄教授は、10月30日より11月8日まで一時帰国。10月30日、ラスキン文庫秋の講演会（共催・日本女子大学文学部・文学研究科）「清らかな空気、水、大地——ラスキン・モリス・環境」（於日本女子大学泉山館大会議室）にて司会を務める。
- 佐藤和哉准教授は、10月30日より12月18日まで、全8回、横須賀市生涯学習財団主催、「横須賀市市民大学」にて、「世界を知る講座～イギリス編～」を講演。
- 川端康雄教授は、11月、「リレー連載：レイモンド・ウィリアムズとの出会い」の「まえがき」を『英語青年』11月号（第154巻第8号）に執筆。
- 川端康雄教授は、11月、「冷戦下の『動物農場』」を『熱風（GHIBLI）』11月号（第6巻第11号）に執筆。
- 坂田薫子准教授は、11月、日本ハーディ協会の事務局長（庶務を兼任）に就任。
- 佐藤和哉准教授は、11月2日、「キース・ハンリー教授の公開セミナー」（於日本女子大学）で司会を勤める。
- ダグラス・フォスター講師は、11月2日、“Teaching Into the West in an EFL Context”を、及び11月3日、“Raising Cultural/Language Awareness through Film”を、JALT2008 (34th Annual International Conference on Language Teaching and Learning & Educational Materials Expo)（於国立オリンピック記念青少年総合センター）にて口頭発表。
- 川端康雄教授は、11月5日、大谷大学、国際文化政策研究教育学会共催の講演会「自然・信仰・生活の美（または詩）」（於大谷大学）にて、講演者 Keith Hanley 氏の通訳および Tony Pinkney 氏の講演原稿の代読をおこなう。
- 英語英文学会主催の秋季講演会が、11月6日、開催された。講師は朝日新聞論説委員越村佳代子氏。演題は「女性が働くこと——その理想と現実」。また、大学院生2名による研究発表も行われた。発表者は、アメリカ文学研究から博士課程前期1年木田あかね。発表タイトルは「Toni Morrison の *Sula* とフェミニズム」。イギリス文化研究から博士課程後期3年升井裕子。発表タイトルは「工業村から田園都市へ——キャドバリーのボーンヴィル村——」。講演と研究発表に先立ち、平成20年度 E. G. フィリップス賞の授与式が行われた。受賞者は、3年次春日友里・東村聡美・矢羽田普子。4年次齋藤麻衣子・鈴木愛。
- 佐藤和哉准教授は、11月11日、一橋大学社会科学古典資料センター主催、「西洋社会科学古典資料講習会」において、「18世紀イングランドの民衆向け出版物を読む」を講演。
- 藤井洋子教授は、11月15日、第26回日本英語学会（於筑波大学）ステューデント・ワークショップにて司会を務める。
- 加藤雅子教授は、11月17日より24日まで、資料収集および打ち合わせのた

- め、カナダ、エドモントン、アルバータ大学へ海外出張。
- 大場昌子准教授は、11月18日、「ユダヤ系アメリカ人作家の魅力」を、山脇学園短期大学にて招待講演。
  - 大学院英文学専攻課程協議会第42回研究発表会が、11月29日、青山学院大学にて開催された。本学大学院より、博士課程前期1年木田あかね、博士課程前期2年工藤貴恵、博士課程後期2年清宮協子が発表。アドバイザーとして、ソートン不破直子教授、三神和子教授、松森晶子教授が出席。
  - 藤井洋子教授は、12月、日本英語学会大会運営委員に就任。
  - 濱野成生教授は、12月、『マリッジ・ライセンス』（世界文化社）を出版。
  - 濱野成生教授は、12月、『ユダヤ人に学ぶ速学術』（グラフ社）を出版。
  - 川端康雄教授は、12月、「オーウェルの動物寓話」をアニメーション映画『動物農場』（ハラス & パチュラー作、三鷹の森ジブリ美術館提供）のパンフレットに執筆。
  - アン・スレイター准教授は、2008年12月24日より2009年1月4日まで、資料収集及びインタビューのため、インド、デリー及びダージリン地方へ海外出張。
  - 坂田薫子准教授は、12月26日、「ベネット夫妻の言い分——『高慢と偏見』に見られる結婚の理想と現実」を、ジェイン・オースティン研究会第2回例会（於フェリス女学院大学、緑園キャンパス）にて口頭発表。
  - 島田法子教授は、1月、「クーパーズタウン博物館——野球の殿堂、フェニモア美術博物館、農民博物館」を北米エスニシティ研究会編『北米の小さな博物館』（彩流社）に執筆。
  - 川端康雄教授は、2月、「リレー連載：レイモンド・ウィリアムズとの出会い」第4回として「討議」の司会を『英語青年』2月号（第154巻第11号）で担当。
  - ダグラス・フォースター講師は、2月6日より19日まで、資料収集のため、連合王国ケンブリッジ、Anglia Ruskin Universityへ海外出張。
  - ダグラス・フォースター講師は、2月20日より22日の間、“Raising Cultural Awareness through Film”及び“Reading, Writing, Watching *Into the West*”を、CATE2009 (The 50th Annual Convention of the California Association of Teachers of English)（於アメリカ合衆国カリフォルニア）にて口頭発表。
  - 白井洋子教授は、2月、書評「坂田雅子著『花はどこへいった——枯葉剤を浴びたグレッグの生と死』（トランスビュー、2008年）」を『図書新聞』（2月21日号）に執筆。
  - 川端康雄教授は、3月、「リレー連載：レイモンド・ウィリアムズとの出会い」第5回として「ボーダーのライター」を『英語青年』3月号（第154巻第12号）に執筆。
  - 川端康雄教授は、3月、翻訳「モリスのユートピアを『日本化』する」（トニー・ピンクニー著）を『英語青年』3月号（第154巻第12号）に掲載。
  - 川端康雄教授は、3月、「ヴェネツィアのラスキン学会」および「秋の講演会『清らかな空気、水、大地——ラスキン・モリス・環境』」を『ラスキン文庫たよ

り』第56号に執筆。

- 島田法子教授は、3月、『英訳ハワイ日本人移民の心の歌——短歌と俳句——』（科学研究費報告）を監修・出版。
- 島田法子教授は、3月、「第二次世界大戦をめぐるハワイ日本人移民の忠誠心と日本字意識——短歌・俳句・川柳を資料として——」を『英米文学研究』第44号に執筆。
- ソーントン不破直子教授は、3月、『『時間』の発明——プラトンからウェルティールへ』を『英米文学研究』第44号に執筆。
- 新見肇子教授は、3月、『イギリス・ロマン派研究』第33号（イギリス・ロマン派学会）に Steve Clark and Jason Whittaker (eds), *Blake, Modernity and Popular Culture* (Palgrave, 2007) の書評を執筆。
- 藤井洋子教授は、3月、“Story co-construction and establishment of mutual consent: Convergences and divergences between English, Japanese and Korean”を *Congress Book of the 18th International Congress of Linguists* に Kim, Myung-Hee と共著にて執筆。
- 藤井洋子教授は、3月、『開放系言語学への招待——文化・認知・コミュニケーション』（唐須教光編）を月刊『言語』『言語圏α』2008年3月号に執筆。
- 大場昌子准教授は、3月、「声にすること、声を聴くこと——グレイス・ペイリーの女性たち」を『ユダヤ系文学の歴史と現在——女性作家、男性作家の視点から』（大阪教育図書）に執筆。
- 坂田薫子准教授は、3月、「ベネット夫妻の言い分——ジェイン・オースティンの『高慢と偏見』に見られる結婚の理想と現実」を、『日本女子大学文学部紀要』第58号に執筆。
- アン・スレイター准教授は、3月、“The Minotaur Is Alive and Well: Jorge Luis Borges’s ‘Funes, the Memorious’”を『英米文学研究』第44号に執筆。
- 内山加奈枝講師は、3月、“Self-consumption as the Last Frontier in Sam Peckinpah’s *The Wild Bunch*”を『英米文学研究』第44号に執筆。
- ダグラス・フォースター講師は、3月、“Unpleasantness in *Pleasantville*: A Critical Discourse Analysis”を『日本女子大学紀要文学部』第58号に執筆。
- 大場久恵助教は、3月、「身体が語りはじめるとき——J. M. Coetzee『夷狄を待ちながら』における拷問」を『日本女子大学紀要文学部』第58号に執筆。
- アン・スレイター准教授は、3月5日、朗読シリーズ“Four Stories Japan”（於東京）にて、自作の小説の朗読を行う。
- 三神和子教授は、3月21日、「ウィーダの動物愛護精神」を、日本比較文学会東京支部3月例会（於大正大学）にて口頭発表。
- 島田法子教授は、3月22日より30日まで、資料収集のため、アメリカ合衆国オークランド、また The Organization of American Historians 年次大会出席のためシアトルへ海外出張。
- 藤井洋子教授は、3月26日、“Situating *self* in the interaction of conducting a problem-solving tasks between Japanese and American pairs”を The 3rd Tokyo

International Workshop on Emancipatory Pragmatics (於日本女子大学)にて口頭発表。

- 島田法子教授は、3月31日、「第41回年次大会報告書——ワークショップB」をアメリカ学会『アメリカ研究』第42号に執筆。
- 濱野成生教授は、3月31日、定年により退職。